

第2回北方領土遺産調査検討会議 議事録（要旨）

1 日時 平成28年3月5日（土） 10時30分～11時30分

2 場所 北方四島交流センター 1階 視聴覚室

3 出席者

(1) 委員

堀 達也（（公社）北方領土復帰期成同盟 会長）

脇 紀美夫（（公社）千島歯舞諸島居住者連盟 理事長）

久保 浩昭（旧逋信省千島回線陸揚げ庫保存会）

本間 浩昭（特定非営利活動法人北の海の動物センター）

石渡 一人（別海町教育委員会別海町郷土資料館 主幹）

村田 一貴（中標津町教育委員会生涯学習課 学芸員）

小野 哲也（標津町教育委員会管理課文化財保護担当係 学芸員）

右代 啓視（北海道博物館総務部 学芸主幹）

(2) 事務局

北海道根室振興局 副局長 谷内 紀夫

北方領土対策課 主 幹 讃岐 雅嗣

係 長 内城 孝司

主 任 蘇田 友紀

主 事 玉理 和也

4 実施内容

(1) 議題

① 北方領土遺産発掘・継承事業に係る平成27年度調査等実施状況

事務局から、平成27年度に実施した事業の実施状況について説明。

【小野委員】

・元島民に取材する際、その都度、その人にあわせて取材の内容を変えているのか。

【事務局】

・北方領土遺産対象の21項目に沿って、その情報を持っていそうな方に話を伺いに行っている。

・現在、根室市内に106歳になるおばあちゃんがいて、この方に島での暮らしについて話を伺う予定。

【右代委員】

・千島及離島ソ連軍進駐状況綴の展示会を行なった後に、これをどうするのかという方向をお聞きしたい。また、生命の冠上映後に寄贈いただいた写真をどう保管していくのか、その方向性についてもお聞きしたい。

【事務局】

・千島及離島ソ連軍進駐状況綴の原本は、札幌にある道立文書館で保管しているが、根室振興局で全て画像を撮り、また、その解説文を作ったので、それをセットにして1冊の綴りにして、例えばニホロに設置するとか、DVDにして貸出できるようにするとか、割と簡単にアクセスし易いような形でご覧いただきたいと考えている。

・生命の冠の写真などの資料については、せっかく集めても保存する場所がないという現実問題がある。ニホロも根室市の収蔵庫も一杯である。資料がどんどん集まってくる状況であれば、根室市や4町にも相談していくことになると考えている。

【堀会長】

・全体に言えることですが、成果品をどういうふうに整理、保存して、継承していくのかということで、これからも議論していくということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

- ・最終年度に報告書という形でまとめることにしていますが、その時に資料をどうするのか報告書の中に書き込んでいただくことにより、それを受けて道がどうするというふうに繋がっていくと思う。今すぐに施設を作るという状況にはありませんが、将来を見据えて、物が伝わっていくような環境の整備を行なっていきたい。

【堀会長】

- ・事業の趣旨からいっても、場所的にはニホロが一番良いと思うが。

【事務局】

- ・収蔵庫の中には、まだ眠っている物もあると思うので、なかなか厳しい。

【堀会長】

- ・それは、これからの懸案事項になるかと思う。

②今後の事業計画について

【堀会長】

- ・平成27年度は21項目のうち13項目に着手したということですが、残りの8項目はやっているのか。

【事務局】

- ・残りの8項目はこれからです。これは平成28年度以降に着手する。

【堀会長】

- ・この事業は3年間で終わるのか。

【事務局】

- ・3年間で報告書をまとめて、一応の整理はしますが、多分調査しきれない。この1年間やってみて、生命の冠を例にとっても、上映することで新たな事実が出てきて、それについていろいろな方から、追加で話を聞いたり調べたりする作業が出てきた。できれば、根室振興局として、予算がつかない事業であったとしても、継続してこれに取り組んでいけるようにやっていきたい。

【本間委員】

- ・北方四島から持ってきた思い出の品についてですが、元島民の中でも集約されている傾向がある。一家の中でバラバラに持っていてもしょうがないということで、ある特定の個人に保管を全て任せるという事例を3~4つ知っている。そういう方々の資料も借り受けて事業に加えたら良いと思う。
- ・北方領土遺産ツアーが第1弾となって、例えば、第2弾として考えられそうなのが、夷酋列像のノチクサ。チャシと連動して北方領土と重ねる形で遺産ツアーの第2弾、第3弾としてやっても良いのではないか。

【事務局】

- ・北方領土遺産ツアーについては、本気でやろうとすれば相当なお金と労力がかかるので、いろんな知恵を借りてやっていかなければならない。今の話は実現可能かなと思うので検討させていただきたい。

【右代委員】

- ・あとは、誰に参加していただくのが大事だと思う。地元の人に参加していただくだけではなく、北方領土を広く知ってもらおうという視点であれば、札幌とか中央圏からどういうふうに人を呼ぶのかという作戦が重要になってくると思う。いろんな企業に働きかけて、札幌からのバスツアーもお願いできればと思う。
- ・先程、会長からも指摘がありましたけれど、集めた資料をどうするのかという問題で、例えばナタ、その云われがないとただのガラクタになってしまうので、そのいわれをしっかりと整理して、どこでどういうふうに保管するのか、それをきちんと位置付けてあげるような施設といえ、私もニホロかなと思う。
- ・文書館にある千島及離島ソ連軍進駐状況綴については、情報公開ということで、古い文書をインターネット上で見れるような状況にして、文書館に依頼して公開する

という方法もあるのかなと思う。

【堀会長】

- ・遺産の寄贈を受けると大変である。そういう意味では、収蔵庫と展示施設が必要になってくると思うんだけど、この事業の成果として、ニホロの一部に常設展示し、一方で資料を収蔵しておくということがセットで考えられないと、本当の成果にならないかなと思う。

【脇副会長】

- ・北方四島から強制的に引き揚げさせられた人達は、樺太を経由して函館に上陸している。函館上陸時におそらく紙幣が中心だと思うけど、かなり没収されている。私の父も最終目的地にいくまでの紙幣を残し、それ以外は全て没収された。機会があれば函館税関にどんなものが没収されたのか、調べてみる必要があると思う。

【事務局】

- ・強制送還で樺太経由で帰られた方々は、島を出る段階でソ連にいろんな物を引剥がされて丸裸にされ、それをくぐりぬけて函館についてそういう状況ですから、持ってこれた物が少ない。自力で脱出してきた人はそれでもいろんな物を持ってこれたという状況はあるのですが、強制送還された方々が半分いるわけですから、その方々の辿った道をきちんと残すためにもこういう資料は大事だと思いますので、それは是非やってみたいと思う。

【久保委員】

- ・先程、ノッカマップのアイヌ先住民の話が出たんですけども、チャシの方で年に1回位慰霊祭をやっているらしいんです。それに根室の白毫寺(びやくごうじ)のお坊さんが行って儀式に参加したことがあるんです。そういうのに北方領土遺産ツアーをぶつけるとかしたら、面白いのではないかな。

【右代委員】

- ・この会議には直接関係なかったので話さなかったんですけど、アイヌ側は毎年阿寒アイヌが中心になって、夷酋列像の悲劇があった37名が殺された状況についての慰霊祭をやっている。和人側の71人殺された慰霊は何もしていない。逆にアイヌの方が和人側の方に行って、71人申し訳ないという慰霊を行っている。これをやるところは自治体でしか対応できないと思う。歴史的なものをきちんと認識してもらうためにツアーを行ない、アイヌの人達と一緒にやっていくのが望ましい姿なのかなと思う。

【堀会長】

- ・この事業でそこまでは、なかなか難しい。ツアーとしてやるのは可能なんだけど、この事業の一環としてやるとなると大変な話になってしまう。根室市辺りが観光誘致というか、地元でそういうイベントをやってそれに併せてツアーをやるというのは可能なのかもしれない。

【右代委員】

- ・この事業から発展して広がっていくと大変なことになる。

【堀会長】

- ・事務局の方でも、検討しておいてください。

【本間委員】

- ・北大の岩下先生のところでボーダーツーリズムというのをやってるんですが、去年、根室発稚内着、オホーツク海側を北上するというのをやった。1つの狙いはオホーツク文化ということで、あちこちに点在する遺跡を回ること。せっかく根室から始めるのであれば、チャシから始めた方が良いのではないかな。ボーダーということで北方領土遺産を考えるという視点から見ると、将来有望なツアー形態の1つかもしれない。それを上手にタイアップして、向こうの事業にこっちが乗っかるような形とか、或いはこんなものがあると、旅行会社に売り込んでいくと、それが花になる

というようなことになっていくのではないか。

【堀会長】

- ・きっかけづくりとしては、この事業が果たす役割だと思うけれど、この事業がそういうものを取り込むということにはならないかな。

【事務局】

- ・現実的には無理です。

【堀会長】

- ・そういう1つのきっかけを提供するとか、ビジネスチャンスをつくるきっかけになると思う。そういう情報を把握しておくということは必要かもしれない。

【事務局】

- ・現実的には無理と申しましたけれど、3年なり5年なりこの事業を継続してどれだけのものが集積できるかにもよりますが、それがベースにあってどう活用していくのかという次のステップが出てくるとすれば、我々の次の世代がそれを基に活用していこうよという話になりますし、また、そういう方向に持っていかなければならないという意識で今からやらなければならないというのはその通りなので、その姿勢でやりたいと思っている。

【堀会長】

- ・そういう意味でも成果品をどういう形で保存・展示するということが大事になってくる。

【村田委員】

- ・上武佐のハリストス正教会も、根室市を回った時に一緒に見る機会があればいいのかなと思う。中標津にも北方四島ゆかりのものがあるということを皆さんに知っていただければと思う。

【事務局】

- ・ハリストス正教会は、非常に大事なものだと思っている。
- ・上武佐のハリストス正教会は、四島から引き揚げてきた千島アイヌの人にとっては、心のよりどころだった。あそこに最終的に集まってきて、それで亡くなった方もいらっしゃるんだけど、キリスト像を持ってきた人の名前はわかっているんですが、その人を知っている人に突き当たらないんです。実際に会った人だとか、どういう人だとかという情報まで辿り着けていない。

【右代委員】

- ・私も調べたんですけども、釧路のハリストス正教会であまり資料を出してくれない。島から引き上げの時に色丹の教会から慌ててキリスト像を持ってきたので右手が折れてないんです。それが当時の慌ただしい状況を示している。
- ・文献で残っている中で、慌ただしく持ってきて、右手が折れたのがわからなくて、火事場の大力でガバッと剝してきたと書かれていた。

【堀会長】

- ・何らかの形でツアーが計画されれば、ひとつの材料として有力な場所になるんじゃないかと思う。

【事務局】

- ・もう1点補足しますと、最終的に根室管内にこういう遺産がありますよというマップ的なもの、情報を含めて、それは根室市だけでなく中標津、羅臼、標津、別海それぞれにあるわけで、それぞれの場所にこういうものがあって、これはこういうものですよというのがわかるような、データベースはもちろん作るんですが紙やDVDをつくっておいて、例えばそれが将来的に巡り歩くツアーみたいな形に繋がっていくような取組としたい。
- ・今回野付でツアーさせていただくのは第1弾で、今後、キリスト像を観に行つて話を聞くツアーだとか、羅臼に行つて村田吾一さんの足跡を辿るツアーとか考えられ

るのでそういうことを想定してやっている。一遍に全部つないでやるのは、もう少し先の話だと思う。

【堀会長】

- ・十分考えたうえでやりたいということですね。
- ・平成28年度の新しい事業は当面この2つということか。

【事務局】

- ・平成28年度の新しい事業は当面この2つということで、ご了解いただきたい。

【堀会長】

- ・いろいろ議論すると、地域としての期待も膨らむと思う。

【本間委員】

- ・思い出の品の関係で思い出したんですが、戦後、島を何回も往復している人が結構いたみたいで、米を取りに行ったり、或いは家の中の物を取りに行ったりして、そういう人達の聞き取りというのは、ほとんどない。今、間に合うかどうかもわからないけど、そういうものの掘り出しもやった方がいい。そうすると思い出の品の展示会がもっと面白くなると思う。

【久保委員】

- ・もっと言えば引き揚げてくる時に自分の家の下に埋めてきたという人達もいる。瓶に入れてきたとか、ドラム管に入れてきたとかという話も聞く。私も2年位前に父と一緒に島に行った時に、家の近くまで行ったんですけど、掘り起こせば何か出てきたんじゃないかと思う。そういうのを含めれば無限に広がっていくのではないか。

【事務局】

- ・島に行って掘り起こして帰ってくるというのは、どうなのかということもあるんですが、時折いろんな物がみつかったりするんですけど、そういう情報も含めてやっていきたいと思う。

【堀会長】

- ・是非引き取りなどそういうことも含めて、行なっていただければと思う。
- ・予定した議題は以上です。その他全体を通じて、こうした方がいいとか、こういうことも考えた方がいいとか何かあれば。

【石渡委員】

- ・北方領土関係の資料の調査の関係で、刊行物の調査を1市4町の博物館施設で行った。結果としては根室市が380件となっているが、実はもっと一杯あって、これをひとつひとつリスト化していくと大変だという話を根室市からいただいている。あと2年ありますので、こういった作業も頑張ってリスト化していければいいかなと思う。

【堀会長】

- ・事務局としては当然ながら、あるものは整理したり、リストを作ったりしなければいけないと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【本間委員】

- ・この間、インターネットで調べたら「北の宝島」というものがありまして、70年以上前にもう一度戻ったら、こういうような旅が出来るんじゃないかというホームページを作っている人がいました。この人自身は元島民でも何でもありませんけど、定年後のライフワークとしてやっていた。彼はここ数十年いろんな元島民の方から聞き取りをして、それをテープに収めて、それが眠っている状態だそうです。
- ・せっかく（テープを）取ってはみたんだけど、それを起こす力がもうないような状態です。彼が収録した方々は、ほとんど鬼籍きせきに入っている方々ですので、これなんかも貴重な資料になると思います。ご参考まで。

【堀会長】

- ・それも是非参考にしていただければと思います。
- ・一通り皆さんからお話をお伺いしました。特に意見がなければ事務局から次回会議

について説明願います。

(2) その他

【事務局】

- ・各種イベントについては、今後も適宜連絡させていただく。
- ・次回の会議開催時期は、6月頃を予定している。

【堀会長】

- ・以上をもちまして、本日の議事を終了いたしますが、様々なご意見があったと思います。事務局は、これらを踏まえて、これからもまた事業計画や事業の推進について、参考にするなり取り込んでいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。以上で、第2回の検討会議を終わらせていただきます。長時間に渡り様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

(了)